



理事長

富田 勝

ごあいさつ

平素は、中日信用金庫をご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

皆さまに、当金庫をより一層ご理解いただきたく、2023年版ディスクロージャー誌「2023中日信用金庫の現況」を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

始めに、昨年5月、当金庫において発覚いたしました、実質無利子・無担保融資の申込時に必要となるセーフティネット保証の認定申請における不正につきまして、日頃から当金庫をご支援、ご愛顧いただいております総代・会員の皆さまをはじめ、関係者の皆さま、地域の皆さまに多大なご迷惑とご心配をおかけし、ここに改めて深くお詫び申し上げます。

今後、法令等遵守態勢の確立等を図り、役職員一同、信頼回復に向け全力で取組んでまいります。

ご高承のとおり、2022年度は、コロナの影響が長引く中、ウクライナ情勢等によるサプライチェーンの混乱及び資源価格等の高騰が続き、企業によって業績回復にばらつきが見られたほか、物価上昇や為替変動により、企業活動や国民生活に様々な影響がありました。

このような中、当金庫は、経営3か年計画「ちゅうしん『未来共創』2023」の中間年度である2022年度を、「地域の中小企業・小規模事業者及び住民等の皆さまへの安定した資金供給は、『当金庫の最も重要な社会的使命』であり、コロナ禍においては、当金庫のこれまでの取組みの『真価』が問われる」との認識のもと、地域金融の円滑化等に取組みました。

法人や個人事業主のお客さまに対しては、ちゅうしんビジネスセンター等を通じて、経営課題等を共有し、課題解決に向けたご提案と継続的なご支援に取組みました。

個人のお客さまに対しては、生活福祉向上に資する取組みに努めるとともに、課題等をお持ちのお客さまについては、解決に向けた取組みを推進しました。

このほか、コロナの影響により、事業や家計等に影響を受けているお客さまに対して、経営改善や事業再構築等のご相談に対応したほか、資金繰りの改善やお借入れ条件の変更等のご相談にも、迅速かつ柔軟に取組みました。

また、世界的な金融市場の変動を踏まえて、価格変動リスクを抑制するため、損切り売却を積極的に行い、運用資産の入れ替えを実施したことから、利益水準は、昨年の実績を下回る結果となりましたが、以上のような方針に基づいて業務活動を展開し、健全な財務内容を維持することができました。これも偏に会員の皆さまを始め、地域の皆さまのご支援の賜と深く感謝申し上げます。

迎えました2023年度も厳しい環境が続くものと予想されますが、当金庫は、「新生・中日信用金庫」として再出発するため、業務改善計画を着実に実行していくとともに、お客さまに対しても金庫内においても、「相互扶助の精神」を常に意識し、助け合い、協力し合って、お客さまの成長と地域の発展に貢献してまいります。

今後とも、格段のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

2023年7月